

平地に避難ビル提唱

災害事例研が報告会

【東京支社】防災研究者らでつくる災害事例研究会（三船康道代表＝盛岡市出身）は9日、東京・文京区の東京大で約60人が出席して東日本大震災の緊急報告会を開いた。日本火災学会の関沢愛会長（東京理科大学大学院教授）は、被災地復興に当たり沿岸の平地に避難ビルの建設を提唱した。

報告した関沢会長は、地震発生後の火災で山田町の約18軒、大槌町の約12軒が焼失し、いずれも阪神大震災で最大の火災（約10軒）を超えたと推定。

「大槌町では小学校に延焼し、一度避難した人がさらに別の場所へ避難を余儀なくされたのではないか」と二次被害が発生した可能性に言及した。

津波と火災による人的被害を軽減するため、バン格拉デシユで実際に行われている例を基に「住宅は高台に建てるのが基本だが、

平地には5階建て程度の頑丈な避難ビルを建設するのが現実的な方法だ」と説いた。

三船代表（元新潟工科大教授）は、がれきを使って人工地盤を造り、住宅地と公園を整備する復興モデルプランを示した。

地震火災について報

津波と火災による人